

Before
After

道しるべ

道徳通信

上尾市立太平中学校
道徳通信 第1号
令和5年5月12日(金)
発行者 校長 井浦 博史

なまえのないねこ

校長 井浦 博史

太平中学校の学校図書館にはたくさんの本があります。学習の資料、将来のことを考えることができる本、スポーツや音楽など趣味を伸ばせる本、ドキドキ・ハラハラする本、そして心をあたたくしてくれる本。今年の道徳通信では、私の心が温かくなった絵本を一冊紹介したいと思います。昨年度は犬のお話でしたので、今年度はねこのお話です。

「なまえのないねこ」文章は竹下文子さん、絵は町田尚子さん、株式会社小峰書店から発行されている絵本です。この絵本の特徴として、まず表紙がとても可愛いのです。ねこ好き、動物好きならば、つい、手に取ってしまう絵本でしょう。表紙には、みどり色の目をした「きじとらねこ」が描かれております。このきじとらねこが物語の主人公です。

「ぼくはねこ。 なまえのない ねこ。」 から物語は始まります。誰にも名前を付けてもらったことがないねこ。それでも小さいときは「こねこ」とよばれていたそうです。でも、大きくなってからはただの「ねこ」だそうです。「ねこ」は町中を散歩し、いろいろなネコたちに出会います。

くつやさんのネコはレオ、本屋さんのネコは元気のげんた、お店の人気者でげんちゃんと声をかけられるそうです。このほかにもやおやさん、おそばやさん、パン屋さんのネコたちとも会いますが、みんな名前を持っています。きっさてんのネコはなんと2つも名前を持っていました。そうこうしているうちに「ねこ」はお寺のネコのじゅげむと話を始めます。「ねこ」はじゅげむに名前が欲しいと相談しました。じゅげむは、自分で好きな名前を付けばいいと提案します。「ねこ」は町中を歩きながら、自分の好きな名前を考えます。かんばん、じてんしゃ、やじるし……。なかなかこれといった名前がないようで、なかなか決まりません。ときには「のらねこ」と言われじゃまもの扱いをされたときもありました。町中を歩いているうちに、雨が降り出しました。なかなか雨はやみません。「ねこ」の心の中は雨の音で一杯になってしまいます。雨宿りをするために公園のベンチの下で体を縮めていた「ねこ」は、小さな女の子に声をかけられます。「どうしたの おなかがすいたの」と……。 「ねこ」は、不思議そうな顔で女の子を見つめます。女の子は「きみはきれいなメロン色の目をしているね」「おいでメロン」。

女の子とおかあさんと「メロン」は雨の中を仲よさそうに歩いて行きました。

「なまえのないねこ」は、Webでも紹介されたことがあるようで、知っている人も多いかもしれません。この物語を読むと心が温かくなります。何度読んでも心が温かくなります。どうしてだろうと考えました。それはきっと、「ねこ」は物語の「ねこ」ではなく、私自身のことなんだろうなあと感じました。優しさとか、幸せとか、嬉しいとかってどういうことなのか、きっと誰かと触れあうこと、誰かに自分の存在を理解してもらっていること、一人じゃないってことが、きっと幸せということなのでしょう。私はこれからも誰かの名前を呼ぶでしょう。そして誰かから名前を呼ばれることでしょう。そうして、人の優しさを毎日感じていくのでしょうか。「なまえのないねこ」は。優しさって一人じゃないってことなのかなと思わせてくれるとても素敵な絵本だと思います。



～ 令和5年度の道徳の授業がスタートしました ～

1年生の初めての道徳では、朝読書の時間を使ってガイダンスを行い、学年職員全員が授業に関わることや、台紙やプリントの利用の仕方など、これから3年間につながる授業の約束を確認しました。授業では、彩の国道徳の教材「仮入部」を扱い、真の友情とは何かについて考えました。

今回の教材は、小学校から仲良しだった友人が違う部活に入部することとなり、自分のやりたい部活に入部するか、仲良い友人がいる部活に入部するか葛藤している際に、仲良しの友人の「離れていても大切な友達だよ」という一言を聞き、友達とはどんな存在なのかを考えるものでした。授業を通して、生徒からは「自分の気持ちも仲間の気持ちも大切にしたい」「友達を応援できる人でありたい」「仲間を信じるのが大切」

「何でも友達と同じにしないでよい」などという言葉が振り返りから見られました。

「仮入部」という中学1年生に身近な話題を通して、「友情」について深く考えることができました。



2年生の道徳授業1回目は、スキージャンプの高梨沙羅選手について書かれた「鳥のように空を飛びたい」という教材を扱いました。高梨選手は「誰よりも遠くまで飛びたい」という目標を達成するために、節度ある生活を送り、たゆまぬ努力を続けて『天才ジャンパー』と呼ばれるまでに成長することができたことを知りました。そして、高梨選手がスキージャンプのために行う日課表から自分に生かすことができることについて考えました。感想には

「起床や就寝時間を決めて時間を有効に活用したい」「練習を積み重ねることの大切さを学んだ」「自分のルーティーンを作って毎日一生懸命努力していきたい」のように、これからの自分の生活に生かして、望ましい生活習慣を身につけていこうとする意見がたくさん見られました。

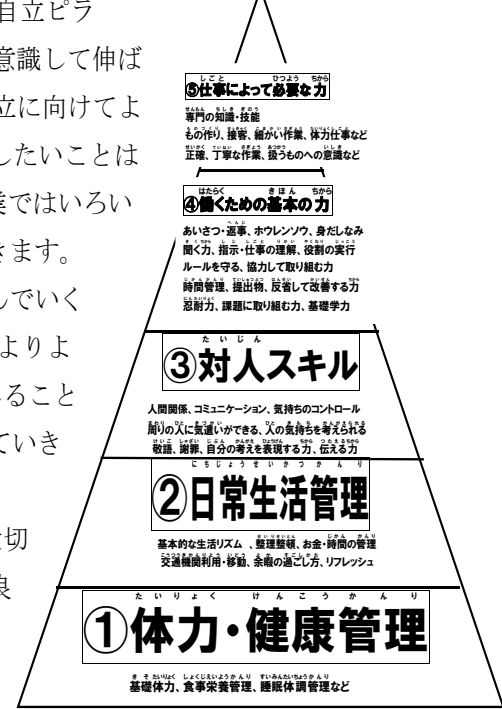


3年生の道徳授業では「三十点の金メダル」という教材を扱いました。伊調馨選手がオリンピックを4連覇したにも関わらず、4度目の優勝に彼女自身が30点と付けたことについて考える導入から始まりました。伊調選手の「目指す試合には楽しむ気持ちが必要」という考えから、生徒自身が今行っていることを楽しむためにどうすればよいかと意見を交流しました。「1人1人が自分のやるべきことをする」「他者の目を気にしすぎない」など、自分自身が楽しむためには与えられた役割を全うし、周りからの評価を気にしない姿勢が大切だと考えていました。そして感想には「どんなにいい結果を出してもそこで満足できない人や、過程を見る人がいるんだということが分かった」「楽しむ時は全力で楽しんで、真剣にする時は真剣にする、切り替えが大切だと思いました！」など普段の自分を振り返り自分らしく充実した生き方をしていこうと前向きに考える生徒が多く見られました。

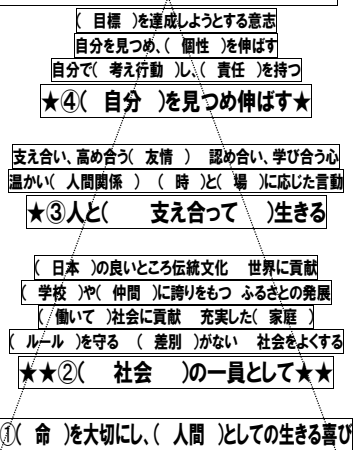


にじいろ学級では自立していくために大切な力を「にじいろ自立ピラミッド」として学校生活で意識しながら力を伸ばしていこうと取り組んでいます。この「にじいろ自立ピラミッド」からにじいろの生徒はどんなことが今の自分に必要な力か？どんな力を意識して伸ばしていきたいか？自分自身で考えました。そして第1回目の道徳の授業では「自立に向けてよりよく生きる」ために道徳の授業で大切にしていることから「自分が大事にしたいことは何か」を考える授業を行いました。道徳の授業ではいろいろな視点から自分の心と向き合い、考えていきます。

にじいろ自立ピラミッド



自立に向けてよりよく生きる



何か」を考える授業を行いました。道徳の授業ではいろいろな視点から自分の心と向き合い、考えていきます。これからの道徳の授業ではどんな視点を学んでいくのかを学習しました。そのことを知る中で、「よりよく生きるために自分が大切にしたい！」と感じることはどんなことか？「学校生活の中で大切にしていきたいこと」を一人一人が考えました。これから始まる道徳の授業の中で自分が大切にしたいことに気付く中で自分の人生をより良くして欲しいと思っています。